

第91回関西学生陸上競技対校選手権大会

開催日:平成26年5月7日(水)~10日(土)

場所:ヤンマースタジアム長居

種目	名前	学年	記録	着順	備考
800m	竹山 楓菜	1年	2分19秒68	準決勝敗退	準決勝2組7着(2組3着+2) (予選3組3着 2分20秒74 5組3着+1)
1500m	港 菜月	2年	4分44秒59	予選敗退	予選1組7着(3組3着+3)
5000m	渡部 貴江	1年	17分19秒54	20 (33名中)	自己新記録
	越水 香菜美	1年	17分50秒13	29 (33名中)	初日の10000mに続くレース
10000m	越水 香菜美	1年	36分19秒40	11 (15名中)	初レース
3000m障害	港 菜月	2年	11分11秒32	9 (30名中)	香川県新記録 自己新記録 (3組タイムレース 2組1着)
	水元 みのり	1年	11分42秒10	16 (30名中)	自己新記録 (3組タイムレース 1組5着)
	角田 凧彩	1年	13分05秒66	30 (30名中)	初レース (3組タイムレース 1組11着)

【山本コメント】

関西の学生アスリートが選手権を競い合う関西インカレにおいて、5種目に6選手が出場した。

1日目は、1500mに港が出場。昨年同大会より約1秒タイムを縮めたが、予選で敗退した。1か月前より約11秒タイムを縮めており、今後の大会での記録更新を期待したい。10000mに越水が出場。自身初めての10000mで、これまでに経験のない長い距離のトラックレースであったが、練習の成果を発揮して、後半まで大きくペースダウンすることなく最後までしっかり走りきった。今後の記録更新を大いに期待したい。駅伝を見据えた時、こういった長い距離を自信をもって走りきれる力が必要である。1年生ながら10000mという種目に果敢に挑戦した越水の姿勢は、チームメイトに大きな刺激となったに違いない。

2日目は、3000m障害に港、水元、角田が出場。港は、3組あるうちの2組目に出場し、終始先頭を走りきり、1着でゴールした。自己記録を約1.7秒更新し、自身が持つ香川県記録も更新した。水元は、2週間前に初めて3000m障害に出場したときは大障害と水濠に大変苦労したが、この2週間でハードルの練習をして、自己記録を約55秒更新するタイムでゴールした。角田は、初の3000m障害レースを果敢に走ったが、大会前に体調を崩したこともあり、本人としても不本意なタイムでのゴールとなった。3人とも、今後の記録の向上を大いに期待したい。なお、港、水元のタイムは、6月の日本学生個人選手権の標準タイムをクリア、港のタイムは9月の日本インカレのB標準タイムもクリアした。

3日目は、800mに竹山が出場。予選は無難に通過したが、準決勝のレースではレース後半に先頭争いに絡めず、順位を下げてゴールした。能力的には、決勝に進出することは十分可能であったので、本人としても不本意な結果となった。シーズンは始まったばかりであり、今後のレースでの奮起を大いに期待したい。

4日目は、5000mに渡部と越水が出場。渡部は、レース後半にややペースを落としたものの最後に踏ん張り、自己記録を約6秒更新した。越水は、3日前に走った10000mのレースの疲労が残っていたようで、後半に大きくペースをダウンさせたが、何とか17分台でまとめた。越水は10000mと5000mの2種目に挑戦したことを自信にしてほしいし、チームメイトは大いに刺激を受けてほしい。

全体を通して、数名が自己記録を更新しませんが、現状の他大学との実力差を肌で感じる機会でもあった。本大会をステップにして、これから個々がさらに走力を上げ、また集団としてのチーム力も全員で上げていき、秋の駅伝に備えていきたい。